

## ①第36回献体実務担当者研修会・②解剖組織技術研究会第16回研修会参加報告

医学系部門 基礎社会医学班 清水伸輝, 中谷宣弘

### 1. はじめに（目的等）

①は全国の献体処置に携わる職員（教員、技術職員、事務職員）や篤志会会員が参集し、実務を行う上での問題点、改善方法について意見交換を行う会である。②は献体処置を行う技術職員の研究会で、①よりも更に技術的な話題を中心に意見交換を行う会である。これらに参加し、献体処置やそれを取り巻く全国の状況に関する情報を得る事を目的とする。

### 2. 期間・場所

期間：①平成30年11月30日 ②12月1日

場所：共に 千葉県成田市 国際医療福祉大学 成田キャンパス WA棟11階 国際会議室

### 3. 参加者等

①献体処置に携わる職員（教員、技術職員、事務員）篤志会会員 約140名

②各大学の解剖学技術職員 約50名

### 4. 研修内容

①「献体のこれからについて考える」をテーマとした2演題と岡山大学における解剖実習の現状報告

②午前；低量ホルマリン固定による曝露濃度低減効果調査報告、作業環境の改善報告など3演題

午後；防腐処置と注入方法の基礎知識のおさらい、ホルムアルデヒド固定の応用など4演題、サージカルトレーニング（後述）に関する諸問題の報告と意見交換

### 5. まとめと感想

①では主に献体登録者の動向、退会・不献体などに関する近年の状況変化や問題、これからについての展望など多岐に渡

って講演された。多くの事例が紹介され非常に勉強になった。本学では献体登録等に係る業務は事務方で行っているため普段あまり接する事はないが、献体実務を担当する一員として、これらの問題についても共有していきたいと思った。②では、今回は午前午後の2部構成で非常に多くの発表がなされた。その中で特に印象に残ったのはサージカルトレーニングに関する報告である。サージカルトレーニングとは卒後医師による外科手技取得を目的とした人体解剖（以下 CST）のことで、従来の医歯学部生による解剖実習とは異なる人体解剖で、近年いくつかの大学で実施されている。本学でも今年度からようやく CST に着手する方向で話が進んでおり、近い将来の立ち上げに際しどのような問題を解決しておくべきか情報を得ておく必要がある。すでに開始している大学と開始直前の大学から技術職員の観点で多くの報告があり、また、これから始めようとする大学との質疑応答、意見交換にも時間が割かれ、非常に有用な情報を持ち帰ることができた。持ち帰った情報を今後のミーティングなどで教員方にフィードバックし、CST の立ち上げに微力ながら協力していきたいと思う。